

教育的ニーズに配慮 放課後のスポーツクラブ

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校に通う中学部・高等部の生徒を対象に、放課後のスポーツ活動に取り組みFSC（附特スポーツクラブ）。クラブの発足は平成17年。体育の授業や地域のスポーツ活動に併せて、さらに生徒一人ひとりの教育的ニーズに十分に応えるために放課後を利用したスポーツ活動（体力づくり、健康づくり、コミュニケーション能力の向上など）の充実を目指したことが始まりです。

活動は大学のサポートを受けて運営されますが、主体となるのはボランティアと保護者、そして生徒による自主的な取り組みが徐々に成果を出しはじめています。活動内容は、ダンスとふうせんバレーボールを週に1回ずつ。それぞれ専門的な知識をもったボランティア講師を招き、楽しく、分かりやすく、生徒や保護者と一緒になって汗を流しています。FSCでは「かごしま体操フェスティバル」や「鹿児島ふうせんバレーボール大会」など、外部の大会や発表会

FSC(附特スポーツクラブ) (鹿児島大学教育学部附属特別支援学校)



空調設備を備えた「日常生活訓練・なかまの家」での活動の様子



講師の高岡綾子先生(右)と萩原香織先生



ダンスや整理運動ではお母さんも一緒になって体を動かします



「できた」という喜びを体いっぱい表現する生徒たち

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校
〒890-0005 鹿児島市下伊敷1-10-1
<http://www.yougo.edu.kagoshima-u.ac.jp>
電話 099-224-6257
FAX 099-225-4776

先生のお話にもあるように、FSCの大きな特徴は生徒だけでなく保護者も一緒に運動やダンスの輪に加わるということ。高岡先生は「FSCの活動を通して親子の関係や繋がりを深めていくことが大切です。なによりお母さんの笑顔は生徒に安心感とやる気を与えてくれますし、逆にこれまでお母さんだけに依存していた生徒であっても、他の生徒や保護者と触れ合うことで、自立心をもって活動に取り組んで行くきっかけにもなります」と、生徒たちの成長する姿を実感しています。

先生、生徒、親と一緒に スポーツ活動に取り組む

ダンスの講師を勤めるのは、鹿児島大学教育学部非常勤講師の高岡綾子先生と、鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター・研究協力員の萩原香織先生。両講師ともに、これまで障害のある生徒との関わりはありませんでした。クラブの発足を機に思い切って生徒たちの輪に加わることを決意しました。

はじめのうちは迷いや躊躇があったそうですが、スポーツクラブでの活動を通して生徒たちと触れ合ううちに、「スポーツや運動に障害のありなしは関係ないことが分かりました。生徒や親とコミュニケーションをとりながら一緒に体を動かすことで、今までできなかったことができたり、新たな発見があったり、色んな可能性が広がっていくんだ」ということを学びました。自らも大きな発見と挑戦の場になったことを話してくれました。

へ積極的に参加し、スポーツを楽しむだけでなく、技術が向上する喜びや、仲間と助け合う大切さなどを生徒たちに伝えていきます。

